



日本史⑥ (漢字と仏教の伝来)

1月③のごあいさつ

山内公認会計士事務所
2024年1月21日(日)

漢字は中国で生まれた文字である。日本に漢字が伝来したのは、**紀元1世紀**まで遡ると言われている。

しかし、その頃の記録が存在しているかというとは明らかではない。**実在するものは、稲荷山古墳から出土した鉄剣名(471年)などの文献が最古のものであり、倭の五王の頃の5世紀以後のものが実在している最古のものである。**

そんなわけで、本格的に漢字が用いられ出したのは**5世紀ころから**となる。

日本書紀には、15代天皇応神天皇(420年頃)のとき、百済王が王仁を遣わせて、「**論語10巻**」と「**千字文1巻**」を貢進したとされており、漢字の日本への伝来は文献としてはこの時代となる。

上記の「**論語**」の伝来に対して、**伝教の伝来**は、少し遅れて、欽明天皇13年(552年)、百済の聖明王(523~554在位)の時代になる。

聖徳太子(574~622年)の事跡とされる**603年の冠位十二階**や、**604年の憲法十七条の制定**は漢字の使用が政治の規律を定めるまでになっており、特に仏教においては、**法華、維摩、勝鬘の「三経義疏」の聖徳太子の著作**にまでなって残され、594年には摂政となった聖徳太子が「**仏教興隆の詔**」を発出した。

飛鳥・奈良・平安時代を貫くキーワードは**仏教**と言われている。百済より伝わった仏教を巡り、豪族が対立し、政権は動揺する。仏教の導入を支持した**蘇我氏**が反対派の**物部氏**を滅ぼし、**聖徳太子**は**仏教**を核に**蘇我氏**を牽制して、**天皇中心の国家建設**を目指し、国家の安定を図った。

奈良時代には、国家を守るため**仏教が国教化**され、それを象徴する大仏が完成し、その頃遣唐使船で**鑑真**が来朝するなどして、日本の**仏教**は本格的に発展することとなった。

僧の地位は向上し、政治に進出するなどしたが、この時代の**仏教**は庶民のものではなく、**国や権力者**を守護するものであった。

政権基盤の弱かった桓武天皇は、政治に関与する僧侶から離れるために**長岡京遷都**を決めるが、政治の混乱が続き**再度都を移すことを決め、願いを込めて遷都した都に平安京と名付けた。**

平安遷都(794年)後、桓武天皇は、新しい**仏教**を求め**最澄**に新しく**比叡山延暦寺**を開かせ、また**蝦夷征伐**で勢力を拡大し、地方政治を改革し、官職も改め、**軍団**を廃し、**志願兵**を採用する制度を成立させ、**天皇権力**を強化した。